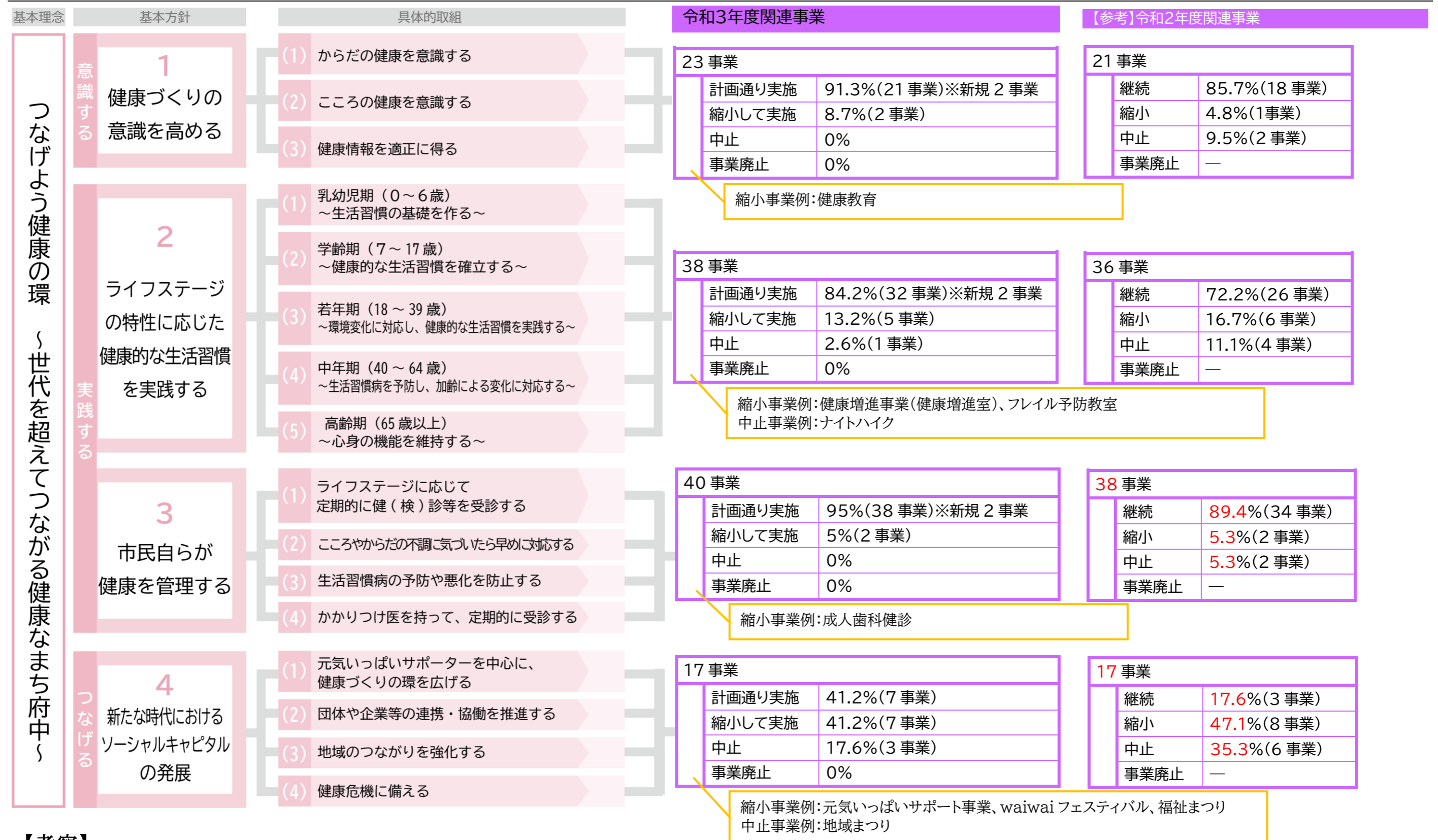


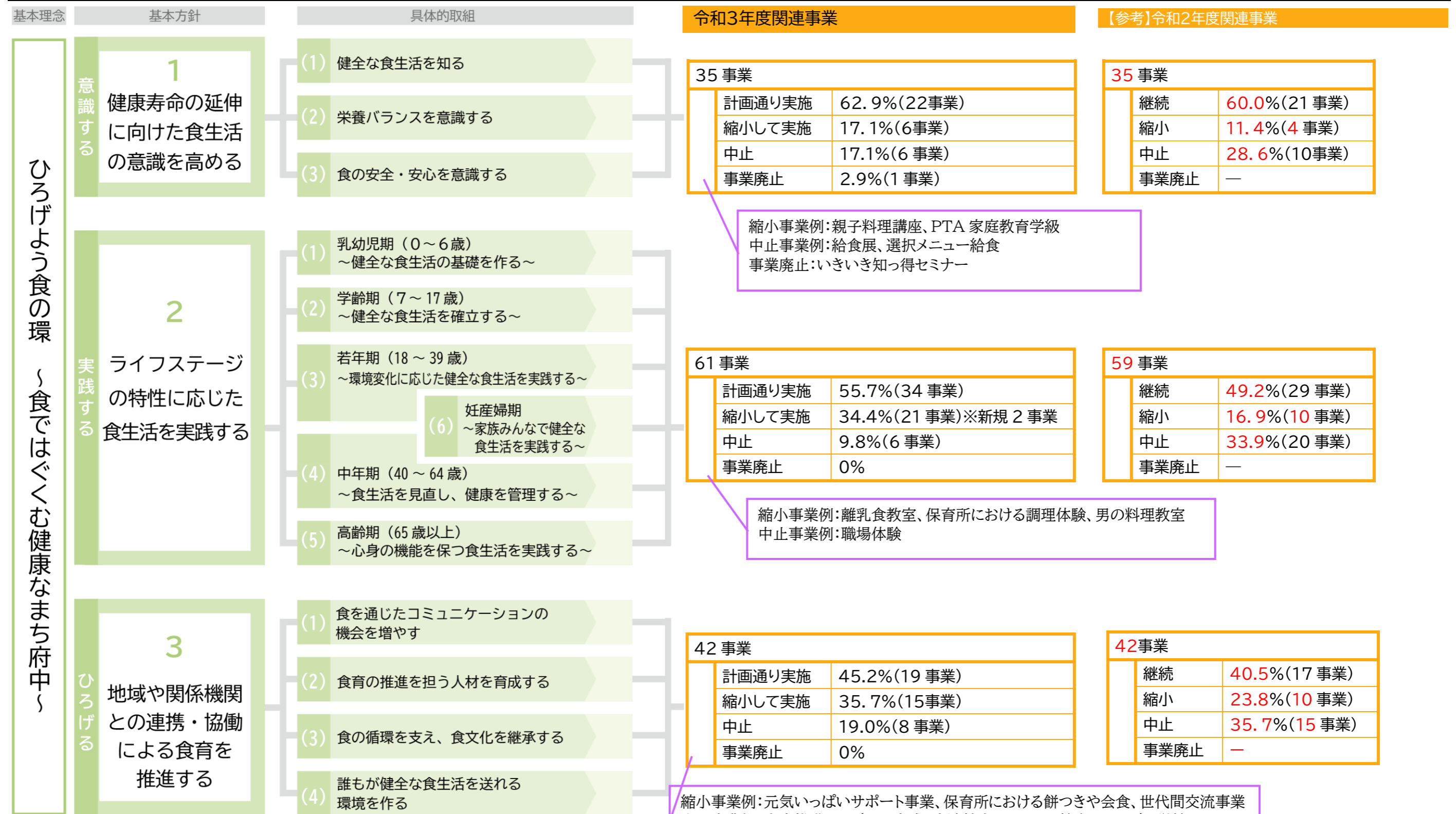
保健計画



【考察】

令和2年度と比較し、「縮小」・「中止」する事業が減り、「計画通りの実施」となっている。特に「つなげる:新たな時代におけるソーシャルキャピタルの発展」は、大きく改善している。しかしながら、計画どおり実施した事業についても、新型コロナウイルス感染症対応として人数制限や内容変更を行うなど、感染症発生前と同じ規模では実施できていないものもある。また、令和2年度には中止していた事業を令和3年度に再開させたものの、事業参加や健(検)受診を市民が控えてしまい、想定どおりの結果にならなかったものもある。

食育推進計画



【考察】

令和2年度と比較すると、3方針ともに「中止」が減少し、「縮小して実施」が増加しており、体験活動が徐々に再開している状況が見られた。現在実施できていない取組等については、調理実習によりできあがった料理の持ち帰り対応や講座での学びにより自宅で実践できる内容、オンラインを活用した講座の実施等、感染対策を講じた実施方法について検討していく必要がある。

対面での会食については、令和2年度から難しい状況が続いており、食を通じた世代間交流や仲間と一緒に食事を楽しむ機会が減少している。「基本方針3(1)食を通じたコミュニケーションの機会を増やす」については、引き続き新たなコミュニケーションの手法を模索していく必要がある。

縮小事業例:元気いっぱいサポート事業、保育所における餅つきや会食、世代間交流事業
中止事業例:食育推進リーダーの育成、交流給食・ふれあい給食、田んぼの学校

令和3年度構成事業評価における課題

【新型コロナウイルス感染症の影響による課題】

- ① コロナ禍での実施時に、参加者数や活動内容が戻らないことに対し、参加を促すための対策が課題。

取組例	主対象者のライフステージ	令和3年度成果と課題
総合防災訓練	全ステージ	感染症拡大防止のため一部中止し、自助・共助を基本とした訓練を実施。地域の方々の協力のもと、避難所の開設の流れなども確認し、災害に備える意識の向上を図った。 コロナ禍の中でいかに参加者に安心して訓練に参加してもらうか、効果的な訓練となるかを検討していく必要がある。
各種健診 (特定健診等 健康診査、成人 歯科健診等)	若年期 中年期 高齢期	【特定健診】 受診者数 18,026 人 / 受診率 47.7% ・令和2年度以降受診率が減少している。 【成人歯科健診】 受診者数 4,653 人 / 受診率 12.7% ・緊急事態宣言中のため、実施開始日を9月1日から13日に遅らせた。 ・対象者(勧奨年齢)・実施期間を変更したが、コロナ禍のため、受診控えが見受けられた。受診控えによる口腔内の悪化等が危惧される。
元気いっぱい サポーター自 主グループ活 動	若年期 中年期 高齢期	【ノルディックでつながる会】 令和2年度と同じく感染症蔓延により、協働して活動している自主グループの活動が止まる状況があった。 【食育推進リーダー パブリカ】 コロナ禍により、令和3年度いっぱい定例会等の会員が集合する取組は中止とし、個人で取り組めるレシピ作成のみ継続とした。

- ② コロナ禍で開始したオンラインでの事業実施について、一方方向になり、参加者同士の交流が難しく、つながりづくりが課題。

事業名	主対象者のライフステージ	令和3年度成果と課題
福祉まつり事業	全ステージ	オンラインにて開催 YouTube 配信団体:13 団体 WEB 型参加団体紹介:50 団体 オンライン開催することができたが、福祉団体及び福祉施設等と地域との交流については十分にできなかった。

【その他の課題】

○ 新規参加者の開拓が課題。

事業名	主対象者のライフステージ	令和3年度成果と課題
障害者地域交流促進事業 (waiwai フェスティバル)	全ステージ	参加人数:2,410 人 障害者福祉に馴染みのない市民層の来場者数増
各種フレイル 予防教室	高齢期	老化の兆しのある方に対して週 1 回の来所と宿題を実施。 少人数制教室で実施していることから、個別対応することができた。 教室参加対象者が重複することから、参加人数が分散していた。